

氏名	衣川 功一
職位	教授
学位	修士(技術経営)
専門分野	情報学
主な担当科目	<ul style="list-style-type: none"> <li>■「コンピューターテラシー」</li> <li>■「Webコンテンツ演習」</li> <li>■「情報コミュニケーション」</li> <li>■「デジタル・デザイン」</li> <li>■「ICT概論」</li> <li>■「アプリ開発」</li> <li>■「アニメーション表現」</li> <li>■「基礎ゼミ」</li> <li>■「専門ゼミ」</li> </ul>
所属学会	<ul style="list-style-type: none"> <li>■経営情報学会</li> <li>■情報システム学会</li> </ul>
研究業績 著書、研究論文、学会発表：番号、書名・論文タイトル、単・共著、出版社・発行所、発行年	<ul style="list-style-type: none"> <li>■著書：情報システム開発入門ーシステムライフサイクルの体験的学習ー、共著、平成20年 1月25日、立出版株式会社</li> <li>■著書：情報システムデザイン：体験で学ぶシステムリフサイクルの実務：、共著、令和3年 1月20日、共立出版株式会社</li> <li>■研究論文：産業人材の確保とグローバル人材の育成単著平成27年3月日本工業大学大学院技術経営研究科「特定研究報告」(全21p)</li> <li>■研究論文：産業人材の確保とグローバル人材の育成-中小の企業と大学における戦略的連携-、単著、平成27年11月、日本工業大学大学院技術経営研究科紀要「技術経営研究報告」第十巻、pp.33-53</li> <li>■研究論文：外国人留学生の就職事情の現状と課題 -就職支援活動から見た実践的研究-、単著、平成30年3月、第一工業大学研究報告紀要第30号2018,pp.88-92</li> <li>■研究論文：留学生に向けたSTEM教育の基盤構築に関する一考察 -STEM教育の構成論的育成メソッドの概観と教材の選定-、単著、平成31年3月、第一工業大学研究報告紀要第31号2019,pp.49-56</li> <li>■研究論文：DX社会で活躍するICT人材の学修カリキュラムの一考察、単著、令和3年3月、東京経営短期大学紀要第30巻,pp.165-172</li> </ul>
学会活動及び社会活動(講演、講師派遣、委員など)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■平成 3年12月 特定非営利活動法人 特許管理士会 (平成10年3月まで)</li> <li>■平成15年11月 一般社団法人 情報サービス産業協会(JISA)日中韓OSSビジネス懇談会</li> <li>■平成27年 3月 埼玉県上里町 超小型モビリティ利活用協議会委員 (平成30年3月まで)</li> <li>■平成27年 8月 東京都台東区 地域連携活動-生涯学習支援(平成30年8月まで)</li> </ul>
氏名	濱崎 統
職位	准教授
学位	学士
専門分野	比較文化
主な担当科目	ホスピタリティ論、ホテルビジネス基礎、ホテル経営論、観光ビジネス、ビジネスマナー、キャリアデザインなど
所属学会	なし
研究業績 著書、研究論文、学会発表：番号、書名・論文タイトル、単・共著、出版社・発行所、発行年	なし
学会活動及び社会活動(講演、講師派遣、委員など)	レ・クレドール(メンバー)、日本コンシェルジュ協会(ホテル会員)、日本観光通訳協会(正会員外理事)

氏名	前野 一夫
職位	教授
学位	工学博士
専門分野	工学(航空宇宙工学、工学一般)
主な担当科目	DXヒューマン・ソサエティ研究所長・特別教授
所属学会	日本航空宇宙学会、日本エネルギー学会、可視化情報学会、日本伝熱学会、他
研究業績 著書、研究論文、学会発表：番号、書名・論文タイトル、単・共著、出版社・発行所、発行年	学会発表：1. 「高速度カメラを利用するレーザー干渉画像CT法を用いた非定常放出衝撃波の4次元密度計測」、共著(講演発表者)、2021年度(令和3年度)衝撃波シンポジウム、2022年3月9日-11日、立命館大学琵琶湖キャンパス。セッションOS1-1(10日)、pdf・OS1-1-4頁。 2. "Uniqueness of Product Assembly line in Japan", Prof. Kazuo Maeno, Invited Lecture, National Institute of Technology, Kisarazu College, Japan, Feb.26, Sat.,: 7th International Workshop on Effective Engineering Education (IWEED 2022), February 25- March 4, 2022 (Online).
学会活動及び社会活動(講演、講師派遣、委員など)	講演：大学コンソーシアム市川産官学連携プラットフォーム2022年度第1回共同FD研修会、2022年7月2日(土)「高校と大学の情報教育～効果的な情報教育プログラムの構築を目指して～」、講演題目「文系短大における複数コース大学科のICT/DX 導入教育と全学展開へ向けて ～短大における DX ヒューマン・ソサエティ研究所の役割～」 委員など：千葉県環境審議会委員(副委員長)、同地球温暖化対策実行委員会委員(副委員長)

氏名	高橋 有弥
職位	教授
学位	修士(MBA)
専門分野	経営学
主な担当科目	ホスピタリティ論、消費者行動論、経営戦略論
所属学会	なし
研究業績 著書、研究論文、学会発表：番号、書名・論文タイトル、単・共著、出版社・発行所、発行年	なし
学会活動及び社会活動(講演、講師派遣、委員など)	千葉県立浦安高等学校探求ゼミ講師、大学コンソーシアム市川(推進委員、共同IR委員)

氏名	安井良彰
職位	准教授
学位	博士(理学)
専門分野	素粒子論
主な担当科目	コンピューターテラシ I・II 数学基礎 プログラミング基礎 基礎ゼミナール 専門ゼミナール
所属学会	日本物理学会
研究業績 著書、研究論文、学会発表：番号、書名・論文タイトル、単・共著、出版社・発行所、発行年	<p>学術論文</p> <p>1.「Numerical calculation of the full two-loop electroweak corrections to muon (g-2) 」 共著 Phys. Rev. D 99, 073004 (2019) 2018年10月30日</p> <p>2.「Automatic calculation of two-loop ELWK corrections to the muon (g-2)」 共著 J. Phys.: Conf. Ser. 920 2017年9月</p> <p>3.「Full <math>O(\alpha)</math> electroweak radiative corrections to <math>e+e\rightarrow e+e-\gamma</math> at the ILC with GRACE-Loop」 共著 Physics Letters B, Vol. 740 2015年1月</p> <p>4.「Full <math>O(\alpha)</math> electroweak corrections to <math>e\bar{e}\rightarrow t\bar{t}\gamma</math> with GRACE-loop」 共著 The European Physical Journal C73 2013年4月</p> <p>5.「素粒子反応計算の自動化—GRACEシステムの現状—」 共著 日本物理学会誌 62(5) 320-328 2007年5月5日</p> <p>6.「Electroweak corrections to Higgs production through ZZ fusion at the linear collider」 共著 PHYSICS LETTERS B 600(1-2) 65-76 2004年10月</p> <p>7.「Full <math>O(\alpha)</math> electroweak and <math>O(\alpha_s)</math> corrections to <math>e+e\rightarrow t\bar{t}H</math>」 共著 Physics Letters, Section B: Nuclear, Elementary Particle and High-Energy Physics 571(3-4) 163-172 2003年10月9日</p> <p>8.「Five-parton amplitudes with two-quark and two-photon at Next-to-Leading Order 」 単著 PHYSICAL REVIEW D 66(9) 2002年3月18日</p> <p>9.「A technique for loop calculations in non-Abelian gauge theories - with application to five gluon amplitude」 単著 Phys.Rev. D61 (2000) 094502 1999年11月24日</p>
学会活動及び社会活動 (講演、講師派遣、委員など)	<p>委員等</p> <p>1.4th Computational Particle Physics Workshop 組織委員 2016年10月, Hayama, Japan.</p> <p>2.日本学術振興会2国間交流事業日仏共同研究メンバー 2006年4月~2008年3月</p> <p>3.LCWS2007国際会議 組織委員 2007年5月 Hamburg, Germany</p> <p>講演等</p> <p>LCWS2002国際会議公演 題目「Measurement of the Higgs self-coupling at JLC」開催地: Jeju, Korea 2002年8月</p>

氏名	國井裕
職位	講師
学位	博士(教育学)
専門分野	比較文化 比較教育 外国語教育 道徳教育
主な担当科目	比較文化論 韓国語 日本文化概論
所属学会	日本比較文化学会, 日本道徳教育学会, 韓国日本語文化学会, 韓国道徳倫理科教育学会
研究業績 著書、研究論文、学会発表: 番号、書名・論文タイトル、単・共著、出版社・発行所、発行年	<p>[著書]</p> <p>『日韓道徳教科書にみる人間像の比較研究』人文社、2012年、単著(ISBN:9788997255672)</p> <p>『実戦ビジネス日本語』図書出版チェックサラン、2012年、単著 (ISBN: 9788989506942)</p> <p>『日本文化と日本語会話』図書出版チェックサラン、2014年、単著( ISBN:9791185440095)</p> <p>『日本語ビジネス文書作成の秘訣』図書出版チェックサラン、2018年、単著(ISBN: 9791187801306)</p> <p>[学術論文]</p> <p>「한국과 일본의 초·중학교 도덕 교과서에 나타난 인물상 비교연구」『비교교육연구』제22권 4호, pp.51-73, 한국비교교육학회, 2012년. 단저</p> <p>「日韓道徳教育にみる愛国心に関する比較研究」『比較文化研究』106号, pp.37-48、日本比較文化学会、2013年、単著</p> <p>「リアルタイム型オンライン授業において日本語教師に求められる資質・能力」『日本言語文化』27号 pp.69-93、韓国日本語文化学会 2014年9月、単著</p> <p>「韓国道徳教育教科書にみる日本像」『比較文化研究』124号, pp.63-72、日本比較文化学会、2016年12月、単著</p> <p>「한·중·일 도덕 교과서에 나타난 애국심 비교 연구」『일어일문학』96권2호, 한국일어일문학회, pp.552-570. 2인공저</p> <p>「A quantitative analysis of moral exemplars presented in moral education textbooks in Korea and Japan」『Asia Pacific Journal of Education』vol.38.n1pp.62-77、共著</p> <p>その他 学術論文 17篇</p>
学会活動及び社会活動 (講演、講師派遣、委員など)	<p>韓国 京畿道 南楊州市 生涯学習センター 講師(2011~2018年)</p> <p>韓国日本語文化学会 海外理事(2012~2014年)</p> <p>ソウル大学 アジア言語文明学部 日本語キャンプ 講師(2017年・2018年)</p> <p>DENSO CUP SOCCER 第12回大学日韓定期戦 記者会見および指導者セミナー 逐次通訳(2015年)</p> <p>DENSO CUP SOCCER 第14回大学日韓定期戦 記者会見および指導者セミナー 逐次通訳(2017年)</p>